

ずいそう

## オランダ駐在私記

潤 間 俊 介



『建設機械施工』なる難い雑誌への執筆と言うことで尻込みしましたが、「やわらかい内容のものを」とのことと、この度駄文を掲載して戴くことになりました。さて何を書こうとあれこれ思案しましたが、他人様に語る趣味、造詣ありません。ただ入社以来ほぼ30年近く海外営業に携わり、数多くの国への出張、2度の海外駐在を通じて様々な経験をしたことは人生を少しばかり豊かにしてくれている様な気がします。とりわけオランダ駐在は家族帯同ということもあり思い出深く、今回はオランダ駐在時の日常生活ことなどを当時の出来事を思い出しながら綴ってみたいと思います。甚だ私的なことではありますが暫くお付き合い戴ければ幸いです。

オランダ駐在は資源バブル華やかな2004年から2008年の4年間、内家族帯同は3年間でありました。当時の仕事は欧州各国の販売店向に油圧ブレーカ、クローラ・ドリルの営業、他管理業務を担当しておりましたが、今回は仕事の話ではなく、プライベートの話を中心にしたいと思います。(正直、売れに売れていた時代で、販売店からの納期クレームへの対応ばかりに追われていたので、仕事の話は面白くありません。)

さて我が家は妻と娘の三人家族、娘は当時5歳で幼稚園へあがる前、妻は東京下町に三代続く寿司屋の娘で、所謂『江戸っ子』で、東京を離れたことはありませんでした。今でもオランダ駐在を告げた時の妻の反応は憶えてないのですが、仕事柄いつかはどこかへ駐在することは覚悟していたのではないかと思います。オランダへの家族帯同は私の駐在から半年後となり当面は単身赴任となりました。オランダ人の同僚からは「家族を冬に連れて来てはダメだ、春にした方がよいよ。」と言われました。オランダはかなり北に位置しており、北海道の更に北、サハリン北部とほぼ同じ緯度にあります。当然、冬は長く、陽も短く、曇りの日が続きますので、そんな時期に来ると気が滅入ってしまうので連れてこない方がよいということです。そして春になると街が一斉に灰色から色鮮やかな世界へと変わります。北欧、西欧の人達のあの太陽への憧憬はこの冬を過ごして初めて理解できると思います。

春になると家族がいよいよやって来ました。オランダは5歳から義務教育となり、娘は幼稚園へ通園しな

くてはなりません、入園した日系幼稚園では通園バスのサービスがなく、妻が娘を送迎する必要がありました。妻は免許取得以来数回の運転経験しかなく、ザ・ペーパー・ドライバーでしたが、いきなり異国の右側通行の地で左ハンドル車を運転することになり、数回の自宅と幼稚園間の運転練習でいきなり路上デビューとなりました。正直、練習中は助手席に座り怖い思いもしましたが、1年後には片手で颯爽と縦列駐車をするまでとなり、案ずるより産むが易し、習うより慣れよ、格言通りとなりました。娘はこの幼稚園からアムステルダム日本人学校へ入学することになるのですが、子供を通じて妻は多くの友人を得て、楽しく、充実した駐在生活を過ごすことができたと言っております。当然、交友関係の中には馬が合う人、合わない人もいたようですが、駐在生活は期間限定、割り切った関係でも問題はないという気楽さもあったと思います。

オランダ駐在時代から現在まで続く我が家のイベントは夏のバケーションです。オランダ人の同僚は夏になると2-3週間のサマー・バケーションをとり、リゾート地へ向い家族サービスとリフレッシュを楽しみます。流石に2-3週間のバケーションは諸事情により難しく、1週間ほどの期間でトルコ、ギリシャ、エジプトのリゾート地で休暇を過ごしました。以来我が家では夏はバケーションで何処かに行くことが年中行事となりました。また、ヨーロッパ各地の観光都市へ手軽に訪れることができるため、連休にはアムステルダムからパリ、ロンドン、ローマ、バルセロナ等各地へと足を伸ばしました。

駐在3年目に娘はアムステルダム日本人学校へ入学、オランダならではの授業としては、スケート、着衣水泳!(オランダは運河が多く、落ちた時の対処方法としての訓練です。)があります。伝統行事も行われ、シントマルテンデイなる子供のお祭りがあり、子供達は提灯を持って家々の玄関先でシントマルテンデイの歌を歌い、家主は子供達にお菓子を配ります(オランダ版のハロウィン)。また驚くことにオランダにはサンタクロースの他にシンタクロースが黒人のピートを従えオランダにやって来ます。そして悪い子

供はスペインに連れ去ると言う設定になっています(昔オランダがスペインの植民地だった影響でしょうか)。いずれにしても子供は12月には2回プレゼントがもらえます。

海外駐在するとよく“活字が恋しくなる”と言います。当時は電子書籍も普及しておらず、文庫本が出張時の必需品でした。幸い自宅の近所に日本書籍を取り扱う書店がありましたが、値段は定価の2倍程します。ただこの書店では在留邦人により古本が活発に取り引きされており、比較的手頃な金額で購入することが出来ました。当然多彩なジャンルの本が集まる一方、自分の好みの本がいつでも買える訳ではありませんので、必然あまり興味のない本に手を出すこともあります。そんな本の中にも心に残る一冊に出会うこともありました。因みに一冊あげるとしたら『回り道を選んだ男たち』(小島直記)、駐在前は筆者を知りませんでしたが、この本をきっかけに小島直記の本を随分読むようになりました。

今、駐在を振り返ると一番の思い出はオランダで出会った人達、特に多くの親切なオランダの人達です。同僚、隣人、アパートのオーナー、旅先で出会ったオ

ランダ人家族、娘が迷子になった時助けてくれた警察官、スーパーのおばちゃん、本当に慣れない家族に優しくしてくれて心から感謝しています。妻と娘は今でも『また、オランダ駐在しないの?』と聞いてきます。

人間は優しくされるとその分優しくなりますので、日本で困っている外国の方をみると声を掛けます。

しかし楽しいことばかりではありませんので、駐在はやっばり大変です。日本と比べれば治安も悪いし、言葉も通じない、慣れない土地での生活、不便なこと、面倒なこともたくさんありストレスも溜まります。家族を帯同すれば、仕事以外に日常生活、家族のケアもしなければなりません。ただ、期間限定の新しい冒険と少しだけ前向きに向かいあえば違った風景が見えてくるかも知れません。その新しい風景はあなたの人生に少しアクセントを加えてくれることは確かです。

つれづれと思うままに駐在時代のことを書いてみましたが、お付き合い戴きましてありがとうございました。その時が来たら是非飛び込んでみて下さい。

Good Luck

—うるま しゅんすけ 古河ユニック㈱ 海外営業部 部長—

